

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

### 「気づきを与える。宇宙兄弟から」

「宇宙兄弟」知っていますか？毎週日曜日7:00から放送されているアニメです。モーニングで連載され、実写で映画化もされている人気アニメです。

筆者は毎週日曜日を楽しみにしています。宇宙を目指す兄弟のお話。今は、宇宙飛行士となりNASAで訓練を受ける弟を目指して、兄が宇宙飛行士になるため奮闘しているところです。

6/24放送された内容は、ビジネスそして人生にも通ずる部分があり、紹介したいと思います。

正確には、宇宙兄弟の話の中で、国際宇宙ステーションに長期滞在した野口宇宙飛行士が言った言葉の紹介となります。（筆者が感じた書き方になっています。ご了承ください）

なぜ？高い税金をつかって宇宙開発するのか？その分を福祉・教育に使えないのか？といった、「なぜ人（私）は宇宙に行こうとしなければならないのか？」という問いに野口さんが答えました。

一本の直線の上を、前後に移動することしかできない蟻（一次元蟻という）がいます。その直線状に石が置かれており、前に進むことができなくなった。蟻たちの中で勇気ある蟻がその直線から一步外にはみでたら、迂回できることがわかった。その蟻たちは前後左右に動くことを覚えた。（二次元蟻という）

今度は、二次元蟻たちの目の前に、迂回できないほどの壁が立ち上がった。勇気ある蟻が壁を登り上へ進むことを覚えた。（三次元蟻という）

三次元蟻から見ると、一次元蟻、二次元蟻達は難しくないところで立ち止まっているように見える。

現在、地球上には様々な問題・課題が沢山ある。宇宙という人類にとって未知に近い地点に立つことで、容易に解決できることがあるかもしれない。今までと違った視点で物事を考え、課題を解決できるかもしれない。三次元蟻が一次元蟻・二次元蟻を導くようにです。

宇宙からの視点です。宇宙に行った人でなければ言えないですね。宇宙へ行った人がこのようなことを言うことで、宇宙開発へ懐疑的な方たちにも納得感があるかもしれません。

「高い税金をつかって宇宙開発するのか？その分を福祉・教育に使えないのか？」と考えている一次元蟻・二次元蟻たちを如何にして導いていくのか？

これから宇宙で新しい発見をして、地球上の様々な課題を解決できる日を期待したいです。また、個人的にも宇宙からの視点を持たなければと思いました。

### ◆業務の世界で考えてみると

さて、宇宙は広すぎるので、このエピソードを業務の世界で考えたいと思います。

「先に業務を見直さなければならないのに、ITを導入すれば問題解決するという認識」「もっと効率的な仕事の仕方があるのに、自己のやり方に固執してしまう」「なかなか提案を上司に受け入れてもらえない」などなど・・・よくこのような状況を聞いたり見たりします。

失礼な言い方になってしまいますが、野口さんの言葉を借りると、一次元蟻、二次元蟻に対してどのように気づきを与えるか？ということになりますよね。

気づきを与える方策の1つとして、体験させるということがあります。全ての業務上の課題を解決できるわけではない

と思いますが、コトを体験したり、モノを見せたり触ったりすることで、コトが進展することがあります。

例えば、最近注目されているのスマートデバイスの導入・私物デバイス活用 (BYOD) は、セキュリティがネックとなり導入が進まないことがあります。しかし、少人数の経営陣やキーマンに使ってもらい、ビジネス的に効果や便利さを感じたら、その利便性を活かすことを優先し、導入が一気に進むことがあります。

業務プロセス改善が進まない時は、業務プロセスが上手くいっている他社を訪れ肌で感じることで、新たな気付きを得ることもあります。(この場合、赴いた先で一緒に仕事をするとさらに良いです。)

モノを売る世界では、展覧会・体験版など体験する機会・触れる機会があると思います。それと同じことは業務の世界でも、通じる部分があります。

「体験させる」「触れさせる」という方法を活用して、気付きを与えるための戦略を練ってみてはいかがでしょうか？

#### ◆気づいているけど・・・できない

気付きを得ているけど動いていないという事例もよくあります。多くは、業務が忙しすぎる、費用や人資源に問題を抱えている。といった理由を聞きます。

しかし、できない状態のまま手をこまねいてはダメです。それでは、一次元蟻・二次元蟻と同じです。

とりあえず動いてみるのがいいと思います。運用で工夫できないかと考えたり、他社・有識者にアドバイスを求めたり、時間をかけた教育計画を立てたりなどです。動けば見えてくることもあるかもしれません。

### 「本は考える為のサプリメント」(その15)

今月ご紹介する本は、最近話題になっているビジネス書です。「新しい製品やサービスを開発する際に、資源(時間・労力など)のムダ使いが多すぎる。無駄に資源をつぎ込まず、より早く製品やサービスを生み出す」ことについて記されている書籍です。

#### 「リーンスタートアップ」(エリック・リース)

次に簡単に内容紹介します。

◆リーンスタートアップはトヨタ自動車のリーン生産方式の考え方をベースにしている。

◆スタートアップに関わる人すべてで、不確実な状態で新しい製品やサービスを創り出さなければならない人的組織をアントレプレナーと定義しています。アントレプレナーはどこにでもおり、独立して事業を起こす人ばかりでなく、会社で新規事業を行う組織、開発部門、プロジェクト、NPO法人、政府機関など様々な人に当てはまると言っています。

◆とにかくやってみよう (Just Do It) や一般的な総括マネジメント手法では、スタートアップが活動する不確実な環境において十分な成果がまず得られない。さらに、その手法では、検証による学びを得られるとは限らない。

◆持続可能な事業の構築方法をできるだけ短時間で学ぶことが重要。そのためバッチサイズを小さくすること。しかし、ただ小さいままではダメで、成長させるストーリーが必要。ストーリーも途中で変更していく (成長エンジン)。

◆やっつけはいけないことを素晴らしい効率でやるほど無駄なことはない。

また、システム開発におけるウォーターフォール型開発手法についても触れられており (著者はプログラマー出身) ウォーターフォール型開発手法はバッチサイズが大きいシステム向けで、予測と計画が正しいことが前提となっている。変化が激しい事業環境とは相性が悪いとあります。世間で起きているシステム開発におけるもめ事 (開発完了したら外部環境や内部事情が変わっていて使えない、納品後すぐに改善費用がかかるなど) はこういうところにも原因があるのかなと思いました。

この書籍はスタートアップのマネジメントについて経験・事例を交えて非常に詳細に記されています。示唆されることが多く、語りつくせないですが、戦略を立案し、戦略的に動き、動くことに対して定量的に検証ができるようにしておく、といった基本的なことが大事だと再認識しました。

### 編集後記

宇宙兄弟の話ですが、個人レベルでも自分がしらない自分を知ってみたいと思いました。(石)

